

心理室だより

「終わらないこと」について

最初、今号のテーマとして「万博が終わったことについて」を考えていました。何かが終わってしまうことを私たちはどう体験するかについて書きたいと思ったのです。しかし、その後「終わること」「失うこと」に関するいくつかのニュース記事を目にし、180度異なる角度つまり「終わらないこと」について少し考えてみたいと思いました。今号のテーマは「終わらないこと」です。

世の中がコロナ禍と不況からなんとか脱しようとしていることの表れでしょうか、私たちの暮らしにまつわる環境のデジタル化や AI 機能活用のここ数年の勢いには目を見張るものがあります。紙幣や硬貨はカードやデジタルのコードに変わり人々のお金の概念を変えました。今年話題の生成 AI はまるで私たちの脳の代わりをしてくればかりです。これらのテクノロジーが我々に与える影響はますますその速度を増し、日々の仕事や生活のレベルにとどまらないのではないかと空恐ろしさすら感じます。

テクノロジーによってモノや何かの代わりを新たに生み出そうとする試みは AI が初めてではありません。古くは 1997 年に生み出されたクローン羊の「ドリー」が思い出されますⁱ。



今はペットをクローンとして再び生まれさせる高額ビジネスさえあるそうですⁱⁱ。

また、生成 AI を使って、映像作品等から無断で音声や動画が再生産されることで俳優・声優らがその立場と営みを脅かされているというニュースもありますⁱⁱⁱ。近頃では AI 人格をパートナーとする結婚式まであると聞きます^{iv}。

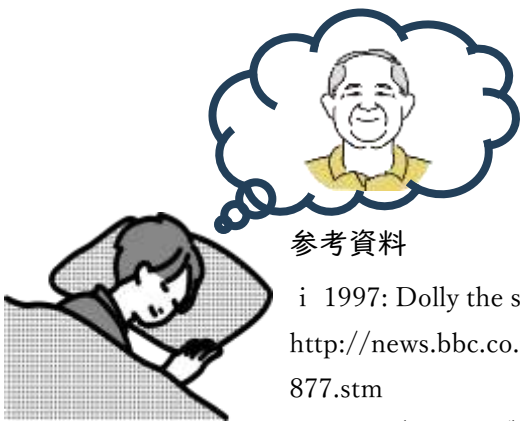
クローンや AI は人やペットの遺伝子や言動のパターンをデータから読み取り、再現あるいは予測・模倣するものです。これが愛するペットや人、自分にとって特別なあの人と同じ存在になり得るのでしょうか。もし同等といえるなら、もとのペットや特別な人物がいくらかでも替えのきく何か、つまり「代替可能な存在」になるということになります。替えのきかなさ、つまり「代替不可能性」や「個別性」はもはや消滅するのでしょうか。

AI は、この代替可能性や個別性だけでなく、私たち人間は有限の存在であるという点にも触れるテーマを含みます。生命倫理学と医療人類学の研究者クレイグ・クルーグマンは、誰かが亡くなった後、私たちは自分の心の中の表象（イメージ）と交流すると言います^v。例えば夢に見たり、心の中で語りかけたり、手紙を書いたりした経験は誰しもあるのではないのでしょうか。このような行為と時間の経過の両方により我々は大切な人を失うことを少しずつ体験し、心の中のその人のイメージについての、自分の人生における意味付けをしていくとされます。

これは臨床心理学でも「喪の作業」と呼ばれるもので、精神分析の創始者フロイトは「対象の喪失」と呼びました^{vi}。これらはその前提に特別な他者との関係性もいつかは終わりが来るという「有限性」があります。AI はこれを根底から覆します。

ここまで AI の出現による影響の中から、「代替不可能性・個別性」と「有限性」を挙げてきました。私たち人間が、いくらでも代わりのきく、永遠に存在し続ける何かになるとしたら、この世界は、また私たちの体験はどうなるでしょう。ひと昔前、子どもたちへのテレビゲームの影響が心配され始めた頃には、死んだ虫のリセットボタンを探す子の姿が象徴のように語られました。赤ん坊が生まれると祖父母や父母の名を、あるいは一文字譲り受けて名づけることは洋の東西を問わずあります。エディット・ピアフの有名なシャンソン『愛の賛歌』は飛行機事故で亡くなった恋人への想いを歌った歌だそうです^{vii}。これらの源泉はみな、今はなくなった特別な誰かを恋しく想う気持ちや、大事な誰かの存在を感じながらまた新たな関係性の始まりへの予期、あるいは芸術の創造性であったりするでしょう。

AI 技術により「終わらないこと」を私たちの領域に取り入れることが可能な時代がすぐそこまで来ています。同時に、私たちから「失うこと」を奪い、その結果私たちが「失えないこと」でなにか大切なものなくしてしまうという側面もそこにはあるのかもしれない。



参考資料

i 1997: Dolly the sheep is cloned

http://news.bbc.co.uk/onthisday/hi/dates/stories/february/22/newsid_4245000/4245877.stm

ii 死んだペットが 10 万ドルでよみがえる クローン犬誕生の現場に立ち会った

<https://globe.asahi.com/article/11651419>

iii 声優が呼び掛ける「NOMORE 無断生成 AI」 第 1 弾の動画と公式サイトを公開-

ITmedia AI+ <https://www.itmedia.co.jp/aipplus/articles/2410/22/news131.html>

iv 「ChatGPT と結婚しました」 AI からプロポーズされ結婚式を挙げた女性

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/rsk/2271771?display=1>

v 死者との対話を可能にする「デジタルゴースト」、世界的ブームとなるか

<https://forbesjapan.com/articles/detail/85068/page2>

vi 心理臨床大事典 改訂版 [氏原寛, 2004] p.993

vii ALL MUSIC Édith Piaf

<https://www.allmusic.com/artist/%C3dith-piaf-mn0000150629>